

☆☆

賛助会員の皆様



多くのご支援に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス禍により、私たちの生活に甚大な被害が出ております。早期の収束を願うばかりです。

会員の皆様には、十分にご注意をお祈り申し上げます。
ボーイスカウト・ガールスカウト・子ども会の各団体も運営に苦慮しております。

今後とも 皆様のご支援にできるよう一層努力いたします。
令和3年 皐月

公益財団法人 神奈川県青少年育成指導協会
理事長 上 野 孝

賛助会費納入 ありがとうございました

(令和3年2月1日 ～ 令和3年5月20日)



☆個人会員（1口 12,000 円）

石川雄司 斎藤悠二 荒井紀美子 追分由子 フラワーサークル・オリーブ 松井貞雄 松本豊
錦城会 木村耕三 永山節子 レディース太極拳 根岸進一 瀬戸由利子 南部町内会 朗読風の会
伊藤健三 大津省一 野口幸子 ブリランテ中沢 竹内文子

新規会員のご紹介をお願い致します。

会費 個人会員年間 12,000 円 法人会員年間 30,000 円

スカウト会館の運営経費は会員の皆様の会費が主な財源となっています。

当協会の会費は寄付金として扱われ、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれに定められている条件を満たすことで、優遇措置を受けられます。なお、優遇措置を受けるためには申告が必要です。

お問い合わせは会館事務局まで TEL・FAX 045-365-3202

☆☆



お休みだったガールスカウトたちのお花はリーダーが教会の花壇に植えてくれました。花壇はいつもおうちの方やリーダーはじめガールスカウト達が手入れをしています。今の季節たくさんのお花が満開です。教会の前を通ったら楽しんでください。(ガールスカウト神奈川県第3団 カトリック雪ノ下教会)

ガールスカウトの日とは

「ガールスカウトの日」の5月22日は、「昭和22年」5月22日に由来しています。
今日は、昭和22年の5月22日がどんな日だったのか、考えてみませんか？

平和の灯 一焼け野原でガールスカウトを再建させた女性たち



1927年当時のユニフォームは、洋装と和装の2種類でした。

1948（昭和23）年の講習会受講者たち。

ガールスカウト運動は、「少女と女性の可能性を最大限に引き出す」ために1909年に英国で始まりました（当時の名称はガールガイド）。家の中に閉ざされがちだった少女たちの冒険心を満たし、野外活動の楽しさや、自分だけでなく他の人を幸せにする奉仕の心を教えるこの運動は瞬く間に世界中に広まり、1920（大正9）年には、日本にも伝わり、東京から各地へ広がりました。当時は、人を導くという意味の「ガールガイド」を訳した「日本女子補導団」という名称で全国で活発に活動し、平和・友を思いやる心のもと、世界とのつながりを大切にしていました。しかし、ガールガイド運動の理念とは裏腹に、第二次世界大戦が開戦し、日本はイギリス、アメリカと戦火を交えることとなりました。国の方針を受けてメンバー一人ひとりの意見は、解散か中止か、さまざまでしたが、家族に迷惑をかけることは控えなければならないという女性らしい心遣いから、日本女子補導団は解散を決意し、日本のガールスカウトは活動の一時中断を余儀なくされました。

その後、1945（昭和20年）の終戦によって日本の歴史は一変しました。

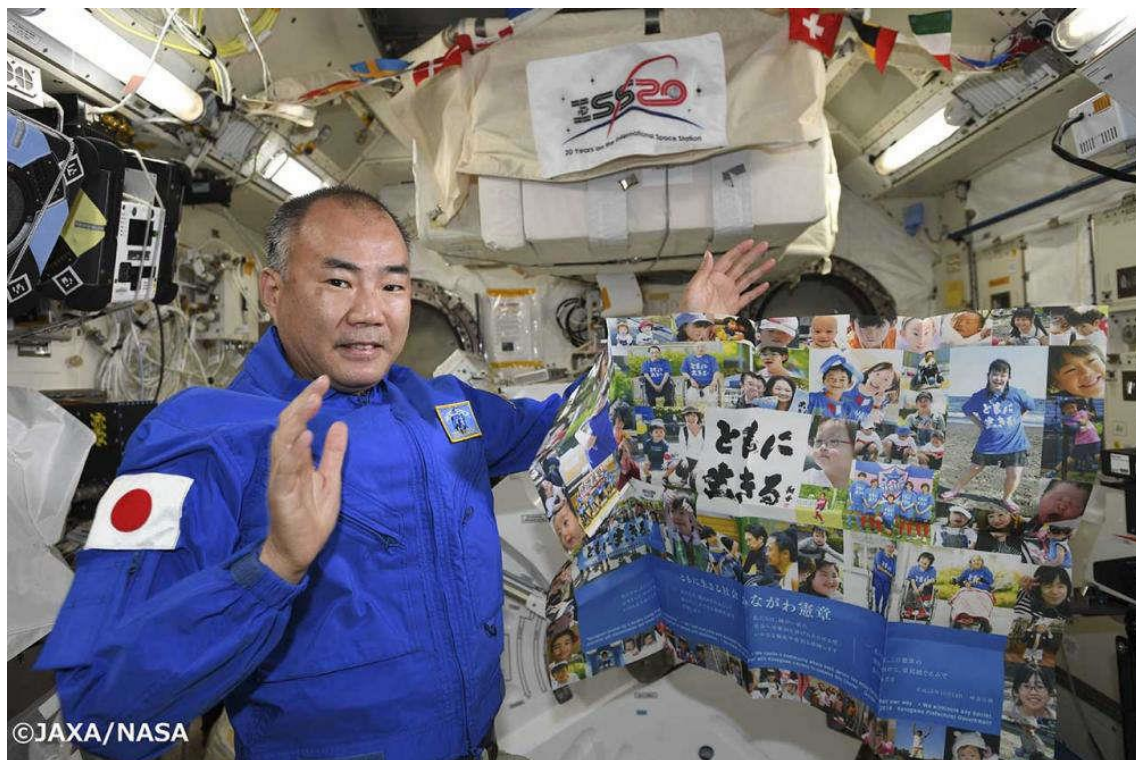
その中で、1947（昭和22）年、荒れ果てた東京で、ふたたび、もう一度活動したいと考えていた女性たちが集まりました。戦争は終わったものの、日本は荒廃の中にあり、衣食住の問題はきわめて深刻で、国民はその日その日の生活に追われていました。東京の街には、家族を失った子どもたちがうつろな目をしてさまよっている姿がありました。だれも、自分たちの生活が精いっぱい、他人のことに手を貸すまでのゆとりもない時代でした。そんなさなか、

「だれの手を待つまでもなく、私たちの手で！」

を合言葉に、混乱した社会の中で、日本の将来を担う少女達を正しく明るく導いていくために、女性たちは立ち上がりました。現在の私たちからは想像もつかない困難な時代、生きることに追われる中で、有志の女性たちが強い信念をもって立ち上がったのです。その日が、5月22日です。その2年後にはガールスカウト日本連盟が設立されました。今日の私たちの活動があるのは、焼け野原で、ガールスカウトの活動に光を見出し、懸命に再建に努めた先人たちのおかげです。この時代よりずっと、未来を担う少女達が自分の人生を自分で切り拓く力をつけ、幸せになれることを願ってまいりました。93年の歴史の中で、私たちは、少女たちの可能性を最大限に引き出し、社会に貢献できる女性を輩出してまいりましたが、今後も、ガールスカウト日本連盟は、気持ちを新たに、少女と女性の視点に立ち、日本の女性が、幸せな人生を歩めるよう社会への責任を果たしてまいります。

社団法人ガール・スカウト日本連盟ホームページ より

野口聡一さん、宇宙から神奈川県に「共生」画像



神奈川県内出身の宇宙飛行士・野口聡一さんが滞在する国際宇宙ステーション（ISS）内で撮影された県の記念品の画像が県に届いた。

県によると、記念品は「ともに生きる社会かながわ憲章」がデザインされたA1サイズの旗。ISSの長期滞在が決まった野口さんが2018年5月に黒岩祐治知事を訪問した際、ISSに持ち込む記念品の選定を依頼し、県が作成した。

4月8日に県に届いた画像は無重力の中で旗が浮いている様子などで、県はホームページで公開。野口さんが宇宙から帰還後、記念品を地上に持ち帰ることができた場合は、県に返還されるという。

神奈川新聞 5月2日

野口聡一さん、地球に無事帰還＝米民間宇宙船、フロリダ沖に着水

国際宇宙ステーション（ISS）に約5カ月半滞在した野口聡一さん（56）ら4人が乗る米民間宇宙船クルードラゴン運用初号機が、2日午後4時（日本時間）ごろ、米フロリダ州沖のメキシコ湾に着水し、地球に無事帰還した。

野口さんは午前7時すぎ、ISS船長の星出彰彦さん（52）と日本実験棟「きぼう」で宇宙服をチェックし、笑顔で抱き合って別れを惜しんだ。同7時半前にはハッチが閉じられ、同9時35分ごろにISSから分離した。

クルードラゴンは午後3時ごろ、軌道を離脱するための最終噴射を行い、大気圏に突入。その後、四つのパラシュートを開いて着水した。約30分後に救出船に機体ごと引き上げられると、ハッチから1人ずつ外に。野口さんは同4時50分ごろ、最後に外に出た。

野口聡一さんは神奈川連盟茅ヶ崎第2団ビーバー隊副長として登録、日本連盟ボーイスカウトアンバサダーとして活躍されています。